

2017年6月号(第5号)

作成・発行 立命館大学 文学部 人文学科
地域研究学域 京都学専攻

【目次】

1. 主任挨拶
2. 新任・他専攻からの教員挨拶
3. 卒業生から後輩へ贈るメッセージ
4. 京都学専攻のイベント紹介
5. 新卒業生の就職先一覧
6. 立命館京都学研究会の活動記録
7. 立命館京都学研究会の案内

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: aso0605@fkc.ritsumei.ac.jp)

立命館大学文学部京都学専攻 facebook
<https://www.facebook.com/ritsu.kyotogaku/>

1. 主任挨拶

河角 直美 准教授

2017年度京都学専攻主任を務める河角直美です。京都学専攻は、本年度35名の新2回生を迎えスタートしました。“京都”という、日本の中で最も深い意味をもった場所で起こっている様々な現象、京都への様々なまなざしなど、京都を理解するためには、その深さゆえに多様な手法、これまでにない視点が求められるでしょう。他の学域や専攻にはない、地域との関わりのなかで構成される授業などを積極的に受講し、自由に京都の本質を追及していただきたいと思います。

2. 新任・他専攻からの教員挨拶

高 正龍 教授

皆様、はじめまして、高正龍(こ・じょんよん)と申します。本来は考古学・文化遺産専攻の教員ですが、本年より京都学専攻の教員に着任することになりました。もっとも関心のある分野は韓国考古学ですが、1988年より2000年まで京都市埋蔵文化財研究所で京都市内の遺跡の調査を行ってきましたので、土の中から出る京都の古いものについては一通り勉強してまいりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

加藤 政洋 教授

京都歴史回廊プログラム、京都学プログラムに続いて、みたびにわたり京都学でお世話になります。京都歴史回廊プログラム期の講義ノートを『京の花街ものがたり』(角川選書、2009年)に、そして京都学プログラムの卒業生との共著章を含む『モダン京都〈遊楽〉の空間文化誌』(ナカニシヤ出版、2017年)をまとめています。ご笑覧ください。

5.新卒業生の就職先一覧 (2016年度卒業生)

【官公庁】茨城県人事委員会、田原市役所、京都府人事委員会、福知山市役所

【大学院進学・専門学校】立命館大学大学院教職研究科実践教育専攻、東京アナウンス学院

【観光・交通】帝産湖南交通株式会社、全日本空輸株式会社、近江トラベル株式会社

【建設・製造】株式会社ベッセル、大東建託株式会社、大和ハウスリフォーム株式会社、ジーク株式会社

【コンサル・技術】株式会社ワールドインテック、INCLUSIVE株式会社

【サービス・小売】日本郵便株式会社、日本中央競馬会、イオンリテール株式会社

【金融・保険】三井住友信託銀行株式会社、株式会社京都銀行、株式会社関西アーバン銀行、
株式会社肥後銀行、第一生命保険株式会社、アイフル株式会社

【出版・マスコミ】株式会社昭文社、株式会社PHP研究所

6.立命館京都学研究会の活動記録

京都学専攻では「京都」を軸に文学・歴史学・地理学をはじめ様々な分野から教育・研究・地域連携などの活動が盛んに進められていますし、これこそが京都学のいちばんの強みであります。

2016年度の研究会は下記のとおり5回開催されました。いずれも、「京都とは何か」、そして「京都学の進むべき方向は？」について非常に熱い発表と議論が行われました。2017年度も引き続き研究会を開催しますので、ぜひご参加いただければと存じます。

| | 発表者 | タイトル | 日時 | 場所 |
|-----|----------|--|-------------|-------------------|
| 1回目 | 河角 直美 先生 | 『『京都市明細図』から読み解く京都の景観変遷』 | 2016年5月27日 | 京都学共同研究室 |
| 2回目 | 田口 道昭 先生 | 「与謝野晶子・鉄幹の京都」 | 2016年7月1日 | 京都学共同研究室 |
| 3回目 | | 「千年の一滴 だし しょうゆ (2014年/日本・フランス/100分) 上映会」 | 2016年10月28日 | 平井嘉一郎記念図書館シアタールーム |
| 4回目 | 三浦 俊介 先生 | 「洛北深泥池の節分儀礼」 | 2016年11月18日 | 京都学共同研究室 |
| 5回目 | 大島 明 氏 | 「京都への視点—「常(つね)のまち」を撮る—」 | 2016年12月16日 | 敬学館232教室 |

7.立命館京都学研究会の案内

皆様のご参加をお待ちしています!

日時: 2017年 7月28日(金曜日)18:00~

会場: 京都学専攻・地域観光学専攻 共同研究室 (衣笠キャンパス、啓明館1階東端の部屋)

発表者とタイトル:

本多 潤子 先生 (立命館大学 授業担当講師、相国寺承天閣美術館 学芸員)

「後水尾院と禅宗(仮題)」

参加費: 無料

事前申込: 不要

お問い合わせはこちらまで。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: aso0605@fkc.ritsumei.ac.jp)

3.卒業生から後輩へ贈るメッセージ

西本 佳代(立命館大学大学院文学研究科 日本文学専修前期課程 京都学プログラム2014年度卒)

私は京都学プログラム(現京都学専攻)の学生として入学しました。学部卒業後は博士課程前期課程として日本文学専修に進み、「近代文学と京都」というテーマのもとで研究しています。これまで、吉井勇、夏目漱石、永田和宏などの京都にゆかりのある人物を取り上げてきました。今後も、京都を舞台にした文学作品や京都出身の作家などを取り上げていきたいと考えています。

現在の私の研究スタイルは、学部生時代の京都学プログラムでの授業や活動での経験に大きく影響を受けています。特に、1、2回生時に履修したフィールドワークを行う授業では、自分の足で現地を訪れることの大切さを学びました。文学研究というと、図書館などで本や史料をもとに行うというイメージがあるかもしれませんが、しかし、文学作品の舞台となった場所や作者と縁のある場所を訪れることで、本などからは感じることでできないリアルな何かを感じることもあります。例えば、吉井勇の京都を詠んだ短歌として「かにかくに祇園はこひし寝るときも枕の下を水のながるる」という有名な短歌があります。この歌は吉井の京都での体験をもとに詠まれており、私なりの歌意は「とにかく、祇園は恋しいところだ。眠っているときも、枕の下を、懐かしい祇園の街を流れる水の音が聞こえるようだ。」となります。現在の京都・祇園白川には「かにかくに碑」が建てられており、「かにかくに」の歌が石碑に刻まれています。私はこの場所を実際に訪れ、かつて吉井が聞いたであろう祇園の街を流れている水の音を自分でも確認してみました。作者が見聞きした当時のままというわけではありませんが、当時の雰囲気のようなものを自分なりに想像することができました。このように、実際に現地を訪れることで、作品や作者への理解が深まることがあります。

京都はとりわけ文学作品の中で描かれることが多く、京都学を学ぶ学生の皆さんにとっては、作品の舞台に直接出向くことが出来るという大きな利点があります。現在ではライトノベルなどの小説でも京都を舞台にしたものがあり、作品に登場する場所や施設を訪れてみるのも楽しいと思います。また、京都学では歴史・文学・地理の観点から総合的に研究することが出来るので、幅広い視点で「京都」について考察することが出来るのも魅力の一つです。地域研究学域や京都学専攻で学ぶ学生の皆さんには、是非、京都の様々な場所や自身の研究している場所を訪れ、自分の目でその場所の魅力や生の雰囲気を感じ、今後の研究に活かしてほしいと思います。

岡谷 藍(奈良女子大学大学院 人間文化研究科 京都学専攻2015年度卒)

私は京都学専攻の一期生として大学生活を送りました。現在は奈良女子大学大学院人間文化研究科に進学しています。学部時代は京都における近代以降の火災と、人々の火災に対する意識の変化を研究していました。京都は古い建物が多く残っているので、過去の大火の経験が語り継がれていることもあって、火災に対する意識が強いまちです。注意して見ると、軒下に置かれているバケツの多さが目に留まりますよ。

さて、私は京都学専攻での学びを楽しみ尽くしたと自信を持って言えるくらい、色んな経験をここでさせていただきました。2回生では、いよいよ京都学に特化した授業が始まり、基礎研究で近世から近代にかけての文献を読んだり、自分たちでフィールドワークの計画を立てて調査したりと、基礎的な研究法や京都に関する知識を身に付けました。ここでの学びが、後の卒論の研究に生きてきます。

3回生は、一番色々なことに挑戦できる一年でした。文学にゆかりのある地を歩き、職人さんたちを先生として伝統工芸の世界を体験しながら「伝統」について真剣に考え、宇多野ユースホステルのインターンでまちあるきマップを作って京都の魅力を発信し、時には京都市を飛び出して京丹後の資料館に行って資料整理の体験なんかもしました。これらは全て専攻の授業の一環で出来たことです。京都学専攻の授業は、とてもバラエティ豊かで面白いものがたくさんあります。また授業以外でも、京都のまち歩きにたくさん参加しましたし、下京区のボランティアとして商店街とイベントを開催したことや、昭和の京都の写真集作りに携わらせていただいたこと、地域のレポーターとして上京区役所の記事を書いていたこともありました。毎日毎日やるのが沢山ありましたが、京都の色々な部分を見る事ができて、非常に刺激的でした。

4回生は、ひたすら卒論と格闘する日々。資料は見つからず、研究が進まない、聞き取り先の人には叱られるなど、苦しい思いもいっぱいしました。しかし、4年間の集大成として、一つのものを書き上げることは、自分自身が一番成長した経験だったと感じます。共研で友人たちと唸りながらパソコンに向かったことも、帰り道にお互いの研究について語り合ったことも、とても楽しい思い出です。提出した後の達成感は、一生忘れられません。

長々と学生生活を振り返りましたが、何が言いたいかというと、京都学専攻は色々なことにチャレンジできる場所だということです。「京都のことしかできないんでしょ？」と言う方もおられますが、思っている以上に自由です。多角的な視野で物事を見ることができ、テーマの幅も広いです。先生方も受け入れてくださるので、自分次第では本当に何でもできますよ。自分だけの面白いテーマを見つけて、今この時だけでも真剣に向き合ってみてください。平日の昼間から資料を探したり、まちを歩いて色々見たりする経験は、非常に贅沢で充実したものです。ぜひ、京都学専攻でしかできないことを全力で楽しんでいただきたいと思います。

4. 京都学専攻のイベント紹介

京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの成果報告会と嵐電まち歩きマップ成果報告会が2017年3月11日(土)に櫻谷文庫で開催されました。

京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの方は伝統産業の職人さんのご指導による受講生の作品や、唐紙刷りの和紙の和綴じレポートを展示しました。また、授業でお世話になった職人さんをお招きしてお茶を点てました。

嵐電まち歩きマップ成果報告会では、プロジェクトの参加学生が嵐電沿線地域の隠れた名所やおすすめのスポットについてのパネルを作成・展示したほか、同地域についての思い出などをマップ上に来場された方々にご記入いただきました。詳細は立命館大学文学部京都学専攻facebookにも掲載しています。

(<https://www.facebook.com/ritsu.kyotogaku/>) こちらもあわせてご覧下さい。



京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの作品展示



嵐電マップ展示
(鉄道模型をつかって町並みを復元しました)



嵐電マップ展示



嵐電マップのパネル展示



京都学フィールドワークⅡ・Ⅲの作品展示